

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオリティ・オブ・ライフ船橋支援教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な活動プログラムの提供	全職員から活動内容について意見を出し合っている。また、季節に合わせて様々な活動を取り入れられるように計画を立てている。今年度は、調理活動にも初めて取り組み活動の幅を増やすことが出来たと考える。	課外活動の行き先候補の充実、多角的な観点からの活動立案を行い、多様な活動プログラムを提供していく。
2	サービス提供記録による詳細な支援内容の共有	個別療育の内容だけでなくその時の子どもの表情や態度、集団活動や自由活動における特筆事項を記し、活動時の写真添付なども行っている。また次回の支援内容にも触れ、保護者様に継続した支援の流れが伝わるよう心がけている。	複雑な課題を提供した場合、言葉だけでは説明しきれないこともあるため、図や写真でより具体的にお伝えできるようにしたい。
3	保護者様及びお子様の満足度	保護者様からのご相談に対する対応のスピード感など信頼していただけるような行動を心がけている。また、スタッフが開設以来変わっていないことも安心して通っていただける要因の1つであると考えている。	引き続き誠実で迅速な対応を心がけ、保護者様及び子どもとの信頼の構築に努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの活動スペースの確保	事業所のもとの有効面積が狭く、利用人数によっては狭く感じる。学習のみであれば適切な広さであるが、自由に活動するスペースとしては狭い。また、個別の部屋となるスペースが存在しない。物理的に完全に区分けできる空間が望まれる。	長期的にみて、教室移転なども視野に入れている。現在出来る対応として、物の配置を工夫して学習と活動のスペースを区分けしている。また必要に応じて車を個室として対応している。より空間利用の効率化を図るため、ローテーブルの取り入れなども検討したい。
2	他事業所や地域の子ども、住民と交流し活動する機会の提供	積極的に交流を図る機会を設けることが出来ていない。また地域住民向けのイベントなどを開催したことはない。交流については放デイに通っていることを知られたくない利用者様もいるため慎重に考えたい。	協議会が主催する放デイ向けのイベントなどへの参加を増やすなどして、他の事業所などの交流を中心に地域の子どもと活動する機会を増やしていきたい。また地域向けの情報発信として、SNSやHPなどを更新し積極的に対外的な情報公開に努めていく。
3	保護者同士の交流やきょうだい同士の交流の機会の提供	保護者同士の交流の場として今年度から保護者会を開催しているがまだ周知しきれておらず、交流の場の不足を感じる保護者様もいた。また、きょうだい同士が交流できる場の検討については未着手である。	きょうだい児の参加も含めた参加者の拡大や回数増加なども検討しながら、まずは保護者会の周知を徹底していきたい。